

II 概要

概 要

人口動態調査票は、「戸籍法」及び「死産の届出に関する規程」により、市町村長に届け出られた出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の各届出書を基に作成されている。

人口動態統計は、この調査票をもとに統計的に把握したもので、行政施策の立案や保健医療行政の基礎資料として広く活用され、人口集団の動向を知る上で重要な役割を果たしている。

また、この統計は、日本において発生した日本人の事象を集計したものである。

表1 人口動態総覧の前年比較

	実 数			率		全国(令和元年)		全国 順位	平均発生間隔			1日平 均件数
	令和元年	平成30年	増減	令和元年	平成30年	実数	率		時	分	秒	
各 人 口 動 態 事 象												
出 生	14,902	15,732	△830	10.4	11.0	865,239	7.0	1	-	35	16	40.8
死 亡	12,509	12,157	352	8.7	8.5	1,381,093	11.2	47	-	42	1	34.3
自 然 増 減	2,393	3,575	△1,182	1.7	2.5	△515,854	△4.2	-	-	-	-	-
乳 児 死 亡	19	24	△5	1.3	1.5	1,654	1.9	43	461	3	9	0.1
新 生 児 死 亡	8	11	△3	0.5	0.7	755	0.9	43	1,095	-	-	0.0
死 産	370	382	△12	24.2	23.7	19,454	22.0	8	23	40	32	1.0
自 然 死 産	180	182	△2	11.8	11.3	8,997	10.2	-	48	40	-	0.5
人 工 死 産	190	200	△10	12.4	12.4	10,457	11.8	-	46	6	19	0.5
周 産 期 死 亡	36	53	△17	2.4	3.4	2,955	3.4	45	243	20	-	0.1
妊娠満22週以後の死産	30	46	△ 16	2.0	2.9	2,377	2.7	-	292	-	-	0.1
早期新生児死亡	6	7	△1	0.4	0.4	578	0.7	-	1,460	-	-	0.0
婚 姻	8,027	7,887	140	5.6	5.5	599,007	4.8	2	1	5	29	22.0
離 婚	3,617	3,618	△1	2.52	2.53	208,496	1.69	1	2	25	19	9.9
合計特殊出生率	-	-	-	1.82	1.89	-	1.36	1	-	-	-	-
五 大 死 因												
悪 性 新 生 物	3,271	3,095	176	228.1	216.1	376,425	304.2	47	2	40	41	9.0
心 疾 患	1,716	1,702	14	119.7	118.9	207,714	167.9	46	5	6	18	4.7
肺 炎	641	675	△34	44.7	47.1	95,518	77.2	47	13	39	58	1.8
脳 血 管 疾 患	1,008	1,015	△7	70.3	70.9	106,552	86.1	41	8	41	26	2.8
老 衰	948	935	13	66.1	65.3	121,863	98.5	45	9	14	26	2.6

- 1 出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生+死産）千対、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産（出生+妊娠満22週以後の死産）千対。
- 2 周産期死亡数は、妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの。
- 3 死因の死亡率は人口10万対。
- 4 合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。
- 5 順位は高順位である。

1 出生

(1) 出生の動向

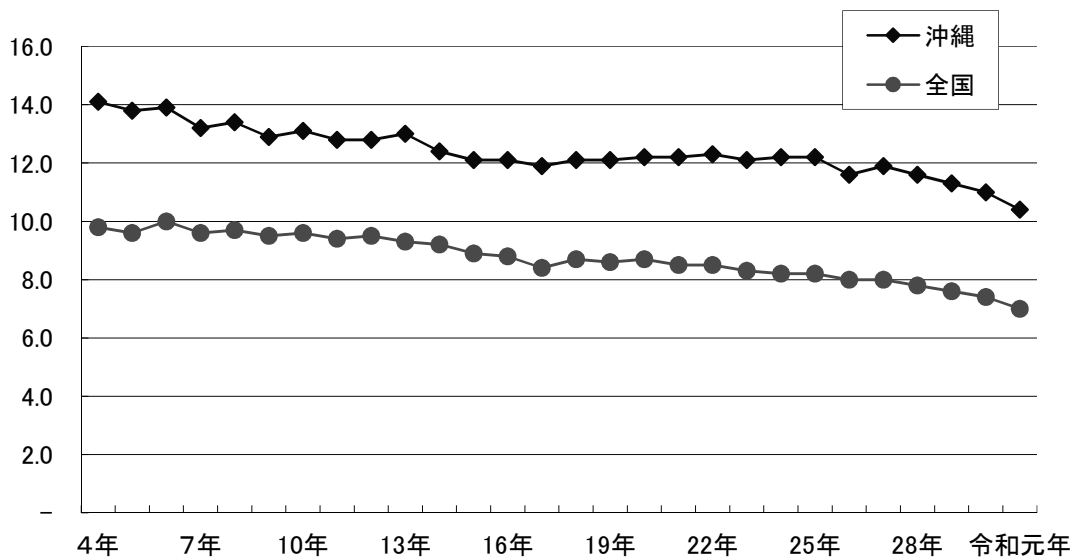
出生の動向を年次推移で見ると、表2及び図1のとおりである。

令和元年の出生数は、14,902人で前年より830人減少した。出生率(人口千対)は、10.4で前年を0.6ポイント下回った。全国の出生率7.0と比較すると、3.4ポイント高く、順位は昭和49年以降46年連続して全国第1位である。

表2 出生数と率の年次推移

年次	出生数	出生率 (人口千対)	全国(率)	年次	出生数	出生率 (人口千対)	全国(率)
4年	17,421	14.1	9.8	18年	16,483	12.1	8.7
5年	17,154	13.8	9.6	19年	16,588	12.1	8.6
6年	17,377	13.9	10.0	20年	16,736	12.2	8.7
7年	16,751	13.2	9.6	21年	16,744	12.2	8.5
8年	17,064	13.4	9.7	22年	17,098	12.3	8.5
9年	16,614	12.9	9.5	23年	16,918	12.1	8.3
10年	16,928	13.1	9.6	24年	17,074	12.2	8.2
11年	16,680	12.8	9.4	25年	17,209	12.2	8.2
12年	16,773	12.8	9.5	26年	16,373	11.6	8.0
13年	17,169	13.0	9.3	27年	16,941	11.9	8.0
14年	16,571	12.4	9.2	28年	16,617	11.6	7.8
15年	16,303	12.1	8.9	29年	16,217	11.3	7.6
16年	16,362	12.1	8.8	30年	15,732	11.0	7.4
17年	16,115	11.9	8.4	令和元年	14,902	10.4	7.0

図1 出生率の年次推移(人口千対)



(2) 出生順位の母親の年齢

表3は、出生した子とその子の母親の何番目の子(死産を除く)に当たるかをあらかず出生順位別出生数と割合を示している。

全国とその割合を比較すると、全国の第1子・第2子を合わせると、82.8%であるが、沖縄は、69.8%である。第3子・第4子以上を合わせた全国の割合は、17.2%、沖縄は30.2%であり、沖縄は、第3子・第4子以上の割合が全国と比べて高い傾向にある。

表3 出生順位別出生数と構成割合の年次推移

	総数		第1子		第2子		第3子		第4子以上	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
平成22年	17,098	100	6,645	38.9	5,428	31.7	3,345	19.6	1,680	9.8
23年	16,918	100	6,467	38.2	5,303	31.3	3,318	19.6	1,830	10.8
24年	17,074	100	6,434	37.7	5,440	31.9	3,385	19.8	1,815	10.6
25年	17,209	100	6,446	37.5	5,572	32.4	3,319	19.3	1,872	10.9
26年	16,373	100	6,416	39.2	5,043	30.8	3,142	19.2	1,772	10.8
27年	16,941	100	6,651	39.3	5,374	31.7	3,175	18.7	1,741	10.3
28年	16,617	100	6,425	38.7	5,286	31.8	3,120	18.8	1,786	10.7
29年	16,217	100	6,160	38.0	5,251	32.4	3,108	19.2	1,698	10.5
30年	15,732	100	5,996	38.1	5,015	31.9	3,047	19.4	1,674	10.6
令和元年	14,902	100	5,545	37.2	4,852	32.6	2,906	19.5	1,599	10.7
全国(R1年)	865,239	100	400,952	46.3	315,713	36.5	114,630	13.2	33,944	3.9

表4は、母親の年齢別にみた出生数とその割合である。これによると、母の年齢別にみた出生数の割合は、25～29歳は24.2%、30～34歳は32.5%、35～39歳は22.9%となっている。

表4 母親の年齢別出生数と構成割合の年次推移

年次	総数	～14歳	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50歳～	不詳
実 数											
平成22年	17,098	1	438	2,308	4,930	5,227	3,496	677	21	-	-
23年	16,918	2	443	2,256	4,735	5,251	3,483	726	17	2	3
24年	17,074	2	478	2,139	4,688	5,304	3,643	792	27	1	-
25年	17,209	1	436	2,191	4,707	5,306	3,665	877	25	1	-
26年	16,373	3	423	1,993	4,373	5,132	3,555	866	25	3	-
27年	16,941	2	434	2,004	4,359	5,557	3,577	979	28	1	-
28年	16,617	1	436	1,961	4,118	5,521	3,577	966	36	1	-
29年	16,217	3	394	1,927	3,988	5,324	3,558	989	34	-	-
30年	15,732	1	379	1,815	3,789	5,233	3,519	958	36	2	-
令和元年	14,902	2	327	1,753	3,608	4,836	3,418	926	30	2	-
割 合 %											
平成22年	100	0.0	2.6	13.5	28.8	30.6	20.4	4.0	0.1	-	-
23年	100	0.0	2.6	13.3	28.0	31.0	20.6	4.3	0.1	0.0	0.0
24年	100	0.0	2.8	12.5	27.5	31.1	21.3	4.6	0.2	0.0	-
25年	100	0.0	2.5	12.7	27.4	30.8	21.3	5.1	0.1	0.0	-
26年	100	0.0	2.6	12.2	26.7	31.3	21.7	5.3	0.2	0.0	-
27年	100	0.0	2.6	11.8	25.7	32.8	21.1	5.8	0.2	0.0	-
28年	100	0.0	2.6	11.8	24.8	33.2	21.5	5.8	0.2	0.0	-
29年	100	0.0	2.4	11.9	24.6	32.8	21.9	6.1	0.2	-	-
30年	100	0.0	2.4	11.5	24.1	33.3	22.4	6.1	0.2	0.0	-
令和元年	100	0.0	2.2	11.8	24.2	32.5	22.9	6.2	0.2	0.0	-
全国(R1年)	100	0.0	0.9	8.3	25.5	36.1	23.2	5.7	0.2	0.0	-

表5は母親の年齢と出生順位とを組み合わせ、出生順位別の母親の平均年齢をみたものである。

これによると、令和元年は第1子が29.5歳、第2子が31.5歳、第3子が32.7歳となっている。

注) 平均期間は平成4年から次の方法により算出
同居から第1子出生までの平均期間
平均期間(年)=Σ同居期間(月)÷件数÷12
同居期間(月)=子の生年月日-同居開始年月

表5 出生順位別母親の平均年齢、父母が結婚生活に入ってから出生順位第1子出生までの平均期間の年次推移

年次	総数	第1子	第2子	第3子	平均期間(年)
平成22年	30.4	28.6	30.5	32.2	1.68
23年	30.5	28.6	30.6	32.3	1.78
24年	30.7	28.8	30.9	32.4	1.85
25年	30.7	28.9	30.8	32.5	1.86
26年	30.9	29.2	31.0	32.5	1.96
27年	31.0	29.0	31.0	33.0	1.95
28年	31.1	29.5	31.2	32.5	2.01
29年	31.1	29.6	31.2	32.5	2.12
30年	31.2	29.5	31.4	32.6	2.08
令和元年	31.2	29.5	31.5	32.7	2.15
全国(R1年)	32.0	30.7	32.7	33.8	2.45

(3) 出生の場所と立会者・出生時の体重

表6、表7はそれぞれ、出生の場所別の出生数と構成割合の年次推移、各出生場所の立会者別の出生割合の年次推移を示したものである。

表6 出生の場所別出生数と構成割合の年次推移

年次	総数	病院	診療所	助産所	自宅	その他
出 生 数						
平成22年	17,098	10,238	6,802	20	33	5
23年	16,918	10,165	6,700	12	33	8
24年	17,074	10,612	6,399	30	26	7
25年	17,209	10,887	6,257	25	31	9
26年	16,373	9,936	6,363	30	35	9
27年	16,941	10,212	6,643	49	26	11
28年	16,617	10,361	6,188	41	17	10
29年	16,217	10,048	6,100	42	21	6
30年	15,732	9,817	5,837	39	30	9
令和元年	14,902	9,774	5,072	36	14	6
全国(R1年)	865,239	476,240	383,472	4,238	976	313
割 合 %						
平成22年	100	59.9	39.8	0.1	0.2	0.0
23年	100	60.1	39.6	0.1	0.2	0.0
24年	100	62.2	37.5	0.2	0.2	0.0
25年	100	63.3	36.4	0.1	0.2	0.1
26年	100	60.7	38.9	0.2	0.2	0.1
27年	100	60.3	39.2	0.3	0.2	0.1
28年	100	62.4	37.2	0.2	0.1	0.1
29年	100	62.0	37.6	0.3	0.1	0.0
30年	100	62.4	37.1	0.2	0.2	0.1
令和元年	100	65.6	34.0	0.2	0.1	0.0
全国(R1年)	100	55.0	44.3	0.5	0.1	0.0

表7 出生の場所、立会者別出生割合の年次推移

年次	総数				病院・診療所・助産所		自宅・その他		
	総数	医師立会	助産師立会	その他	医師立会	助産師立会	医師立会	助産師立会	その他
平成22年	100	99.7	0.3	-	99.6	0.2	0.1	-	-
23年	100	99.7	0.2	0.1	99.6	0.2	0.1	-	0.1
24年	100	99.6	0.4	0.1	99.5	0.3	0.1	0.1	0.1
25年	100	99.6	0.3	0.1	99.5	0.3	0.1	0.1	0.1
26年	100	99.6	0.4	0.1	99.5	0.3	0.1	0.1	0.1
27年	100	99.5	0.4	0.1	99.4	0.3	0.1	0.0	0.1
28年	100	99.6	0.3	0.1	99.6	0.3	0.1	0.0	0.1
29年	100	99.6	0.3	0.1	99.5	0.3	0.1	0.0	0.1
30年	100	99.5	0.4	0.2	99.4	0.3	0.1	0.0	0.2
令和元年	100	99.6	0.3	0.1	99.6	0.3	0.0	0.0	0.1
全国(R1年)	100	95.1	4.8	0.0	95.1	4.8	0.1	0.0	0.0

表8は、出生時における体重別にみた出生割合である。これによると、2.5kg以上3.0kg未満が39.6%、3.0kg以上3.5kg未満が39.4%となっている。

また、表9は、性別にみた出生時の平均体重及び2,500g未満の出生数とその割合の年次推移である。これによると、平成30年の2,500g未満の低体重児の全出生数に占める割合は11.2%となっている。

表8 出生時の体重別にみた性別出生数

体重	実数			構成割合(%)		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	14,902	7,661	7,241	100	100	100
0.5kg未満	4	1	3	0.0	0.0	0.0
0.5kg以上～1.0kg未満	61	29	32	0.4	0.4	0.4
1.0～1.5	90	44	46	0.6	0.6	0.6
1.5～2.0	252	125	127	1.7	1.6	1.8
2.0～2.5	1,255	594	661	8.4	7.8	9.1
2.5～3.0	5,905	2,797	3,108	39.6	36.5	42.9
3.0～3.5	5,878	3,159	2,719	39.4	41.2	37.6
3.5～4.0	1,333	826	507	8.9	10.8	7.0
4.0～4.5	111	75	36	0.7	1.0	0.5
4.5～5.0	9	8	1	0.1	0.1	0.0
5.0kg～	-	-	-	-	-	-
不詳	4	3	1	0.0	0.0	0.0

表9 性別にみた出生時の平均体重及び2,500g未満の出生数とその割合の年次推移

年次	平均体重(kg)		総数			男			女		
	男	女	全出生数	2,500g未満の出生数	割合(%)	全出生数	2,500g未満の出生数	割合(%)	全出生数	2,500g未満の出生数	割合(%)
平成22年	3.01	2.93	17,098	1,912	11.2	8,771	883	10.1	8,327	1,029	12.4
23年	3.02	2.95	16,918	1,796	10.6	8,542	809	9.5	8,376	987	11.8
24年	3.01	2.94	17,074	1,979	11.6	8,749	939	10.7	8,325	1,040	12.5
25年	3.01	2.93	17,209	1,957	11.4	8,690	901	10.4	8,519	1,056	12.4
26年	3.01	2.93	16,373	1,876	11.5	8,427	869	10.3	7,946	1,007	12.7
27年	3.01	2.94	16,941	1,848	10.9	8,744	875	10.0	8,197	973	11.9
28年	3.01	2.93	16,617	1,873	11.3	8,522	875	10.3	8,095	998	12.3
29年	3.01	2.94	16,217	1,798	11.1	8,170	836	10.2	8,047	962	12.0
30年	3.01	2.93	15,732	1,728	11.0	8,165	794	9.7	7,567	934	12.3
令和元年	3.01	2.93	14,902	1,662	11.2	7,661	793	10.4	7,241	869	12.0
全国(R1年)	3.05	2.96	865,239	81,462	9.4	443,430	36,828	8.3	421,809	44,634	10.6

(4) 嫡出でない子の出生

法律上の婚姻関係にある女(母親)から産まれた子を嫡出子といい、そうでない子を嫡出でない子という。

表10は、母親の年齢別にみた「嫡出でない子」の出生数と割合の年次推移である。これによると、嫡出でない子の全出生数に占める割合は、令和元年は4.2%である。

同じ年齢の母親から産まれた子供に対する嫡出でない子の占める割合では、19歳以下の若い母親が35.3%で最も多くなっている。

表10 母親の年齢別にみた「嫡出でない子」の出生数と割合の年次推移

年次	総数		～19歳		20～24		25～29		30～34		35～39		40～	
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合
平成 22年	701	4.1	135	30.8	128	5.5	157	3.2	139	2.7	108	3.1	34	4.9
23年	702	4.1	141	31.7	147	6.5	149	3.1	130	2.5	91	2.6	44	5.9
24年	731	4.3	173	36.0	156	7.3	141	3.0	130	2.5	97	2.7	34	4.1
25年	696	4.0	146	33.4	177	8.1	125	2.7	130	2.5	87	2.4	31	3.4
26年	741	4.5	164	38.5	165	8.3	127	2.9	115	2.2	122	3.4	48	5.4
27年	722	4.3	158	36.2	167	8.3	127	2.9	117	2.1	101	2.8	52	5.2
28年	720	4.3	171	39.1	146	7.4	122	3.0	142	2.6	101	2.8	38	3.8
29年	680	4.2	154	38.8	146	7.6	114	2.9	113	2.1	109	3.1	44	4.3
30年	640	4.1	133	35.0	140	7.7	100	2.6	137	2.6	91	2.6	39	3.9
令和元年	625	4.2	116	35.3	152	8.7	112	3.1	98	2.0	107	3.1	40	4.2
全国 (R1年)	20,171	2.3	2,460	31.6	5,054	7.0	4,043	1.8	3,772	1.2	3,405	1.7	1,437	2.8

注 1.総数には年齢不詳を含む。

2.割合は同じ年齢の母親による出生数に対する百分率である。

2. 死亡

(1) 死亡の動向

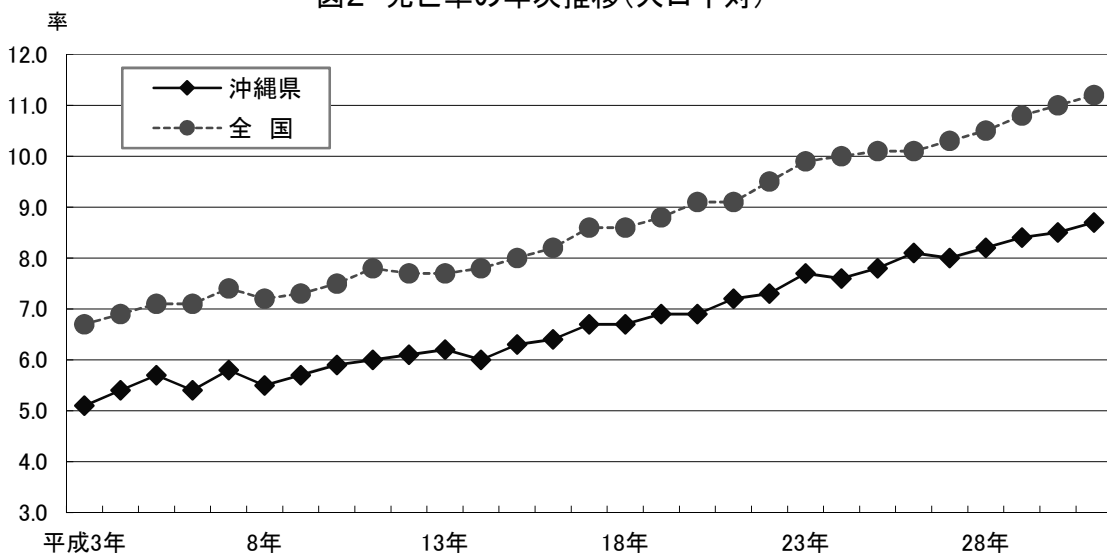
表11は、死亡数と死亡率の年次推移である。これによると、令和元年の死亡数は、12,509人で前年より352人増加した。また、人口千対の死亡率は8.7で前年より0.2ポイント増加した。

これを全国の11.2と比較すると、2.5ポイント下回っており、平成14年以降18年連続で低い方から第1位である。

表11 死亡数と率の年次推移

年次	死亡数	死亡率(人口千対)	
		沖縄県	全国
平成3年	6,263	5.1	6.7
4年	6,665	5.4	6.9
5年	7,023	5.7	7.1
6年	6,830	5.4	7.1
7年	7,283	5.8	7.4
8年	7,038	5.5	7.2
9年	7,381	5.7	7.3
10年	7,643	5.9	7.5
11年	7,880	6.0	7.8
12年	7,946	6.1	7.7
13年	8,132	6.2	7.7
14年	8,037	6.0	7.8
15年	8,433	6.3	8.0
16年	8,610	6.4	8.2
17年	9,021	6.7	8.6
18年	9,121	6.7	8.6
19年	9,399	6.9	8.8
20年	9,492	6.9	9.1
21年	9,923	7.2	9.1
22年	10,156	7.3	9.5
23年	10,686	7.7	9.9
24年	10,626	7.6	10.0
25年	10,956	7.8	10.1
26年	11,361	8.1	10.1
27年	11,326	8.0	10.3
28年	11,706	8.2	10.5
29年	11,945	8.4	10.8
30年	12,157	8.5	11.0
令和元年	12,509	8.7	11.2

図2 死亡率の年次推移(人口千対)



(2) 死因

人口動態統計に用いる死因分類は、平成7年から世界保健機構(WHO)が定めた国際疾病分類(ICD)の第10回修正(ICD-10)、平成18年からICD-10(2003年版)に準拠した分類、平成29年からは「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回改定(ICD-10)(2013年版)」に準拠して設定される「疾病、傷害及び死因の統計分類(平成27年2月13日総務省告示第35号)」が適用されている。

なお、昭和54年から平成6年までは第9回修正、昭和53年以前は第8回修正によっており、死因分類の名称や内容の変更等があり年次推移を見る場合留意されたい。

表12は、令和元年の総死亡数について、死因順位の第5位までの死亡数、死亡割合を年齢区分別に示したものである。それによると第1位は悪性新生物でその死亡数は3,271人、総死亡数に占める割合は26.1%となっている。

表13、表14は、それぞれ本県と全国の死因別死亡率について、第8位までを示したものであるが、前述したとおり、人口動態統計に用いる死因分類の変化に留意されたい。

表13によると、戦前から戦後の昭和27年頃まで上位を占めていた胃腸炎(旧胃炎、十二指腸炎、腸炎及び大腸炎)、肺炎及び気管支炎、全結核などの感染症疾患は、次第に後退し、これに代わって生活習慣病と不慮の事故、自殺が台頭してきた。

また、悪性新生物は昭和45年から第2位となり、52年以来第1位が続いている。

(3) 年齢からみた死因

表12で、年齢階級別に死因順位をみると、65歳以上では死因の第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が老衰、第4位が脳血管疾患となっている。

表12 年齢階級別

年齢	総数		第1位			第2位		
	死亡数	割合	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合
総数	12509	100	悪性新生物	3271	26.1	心疾患	1716	13.7
1歳未満	19	100	先天異常	5	26.3	呼吸障害	2	10.5
0～4歳	32	100	先天異常	7	21.9	周産期に発生した病態	5	15.6
5～9歳	6	100	悪性新生物	2	33.3	先天異常	1	16.7
10～14歳	4	100	心疾患	1	25.0	脳血管疾患	1	25.0
15～19歳	11	100	不慮の事故	6	54.5	自殺	2	18.2
20～24歳	24	100	自殺	10	41.7	不慮の事故	5	20.8
25～29歳	24	100	自殺	9	37.5	悪性新生物	4	16.7
30～34歳	41	100	自殺	11	26.8	心疾患	7	17.1
35～39歳	81	100	自殺	18	22.2	悪性新生物	14	17.3
40～44歳	133	100	悪性新生物	37	27.8	自殺	22	16.5
45～49歳	227	100	悪性新生物	64	28.2	肝疾患	36	15.9
50～54歳	275	100	悪性新生物	105	38.2	肝疾患	33	12.0
55～59歳	399	100	悪性新生物	156	39.1	心疾患	53	13.3
60～64歳	654	100	悪性新生物	284	43.4	心疾患	76	11.6
65～69歳	984	100	悪性新生物	415	42.2	心疾患	130	13.2
70～74歳	926	100	悪性新生物	371	40.1	心疾患	94	10.2
75～79歳	1244	100	悪性新生物	412	33.1	心疾患	177	14.2
80～84歳	1813	100	悪性新生物	527	29.1	心疾患	219	12.1
85歳以上	5631	100	悪性新生物	872	15.5	心疾患	868	15.4
(65歳以上)	10598	100	悪性新生物	2597	24.5	心疾患	1488	14.0

注：1 乳児(1歳未満)の死因については、乳児死因简单分類を使用した。

2 死因名は次のように略した。

先天異常 → 先天奇形、変形及び染色体異常

呼吸障害 → 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害

妊娠期間障害→妊娠期間及び胎児発育に関する障害

出血性障害→胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害

死因順位

令和元年

第3位			第4位			第5位		
死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合
脳血管疾患	1008	8.1	老衰	948	7.6	肺炎	641	5.1
妊娠期間障害	1	5.3	周産期に特異的な感染症	1	5.3	出血性障害	1	5.3
心疾患	4	12.5	不慮の事故	2	6.3	腸管感染症	1	3.1
不慮の事故	1	16.7	-	-	-	-	-	-
肝疾患	1	25.0	-	-	-	-	-	-
悪性新生物	1	9.1	心疾患	1	9.1	-	-	-
心疾患	2	8.3	悪性新生物	1	4.2	ヘルニア及び腸閉塞	1	4.2
心疾患	4	16.7	不慮の事故	4	16.7	筋骨格系及び結合組織の疾患	1	4.2
悪性新生物	5	12.2	不慮の事故	3	7.3	脳血管疾患	2	4.9
心疾患	10	12.3	脳血管疾患	10	12.3	肝疾患	8	9.9
肝疾患	19	14.3	心疾患	14	10.5	不慮の事故	11	8.3
心疾患	31	13.7	脳血管疾患	19	8.4	自殺	15	6.6
自殺	27	9.8	心疾患	25	9.1	脳血管疾患	19	6.9
肝疾患	38	9.5	脳血管疾患	27	6.8	自殺	19	4.8
肝疾患	49	7.5	脳血管疾患	39	6.0	自殺	25	3.8
脳血管疾患	76	7.7	肝疾患	34	3.5	肺炎	26	2.6
脳血管疾患	73	7.9	不慮の事故	30	3.2	肺炎	28	3.0
脳血管疾患	104	8.4	肺炎	52	4.2	間質性肺疾患	29	2.3
脳血管疾患	166	9.2	肺炎	104	5.7	老衰	65	3.6
老衰	866	15.4	脳血管疾患	467	8.3	肺炎	398	7.1
老衰	948	8.9	脳血管疾患	886	8.4	肺炎	608	5.7

3 死因順位は死亡数の多いものから定めた。死亡数が同数の場合は分類番号の若いものから記載した。

4 総数には、年齢不詳及び「死因順位に用いる分類項目」に含まれない死因が含まれる。

表13 年次別にみた

年次	第1位		第2位		第3位		第4位	
	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率
大正11年	胃腸炎	235.3	肺炎及び気管支炎	212.5	全結核	208.2	老衰	132.8
昭和5年	胃腸炎	284.0	全結核	223.4	肺炎及び気管支炎	206.4	老衰	144.8
50	脳血管疾患	98.3	悪性新生物	80.4	老衰	63.1	心疾患	58.9
55	悪性新生物	103.0	脳血管疾患	77.8	心疾患	70.5	老衰	43.6
60	悪性新生物	103.9	心疾患	74.1	脳血管疾患	53.0	肺炎及び気管支炎	34.2
61	悪性新生物	111.5	心疾患	77.3	脳血管疾患	53.5	肺炎及び気管支炎	38.7
62	悪性新生物	115.4	心疾患	79.5	脳血管疾患	52.9	肺炎及び気管支炎	37.2
63	悪性新生物	112.3	心疾患	92.9	脳血管疾患	51.9	肺炎及び気管支炎	42.6
平成元年	悪性新生物	117.0	心疾患	88.7	肺炎及び気管支炎	49.8	脳血管疾患	49.5
2	悪性新生物	127.4	心疾患	96.5	肺炎及び気管支炎	57.7	脳血管疾患	51.1
3	悪性新生物	127.2	心疾患	90.2	肺炎及び気管支炎	53.8	脳血管疾患	51.1
4	悪性新生物	141.6	心疾患	93.8	肺炎及び気管支炎	61.8	脳血管疾患	52.6
5	悪性新生物	140.3	心疾患	108.8	肺炎及び気管支炎	66.3	脳血管疾患	48.3
6	悪性新生物	141.7	心疾患	89.2	肺炎及び気管支炎	64.2	脳血管疾患	51.0
7	悪性新生物	153.5	心疾患	71.4	脳血管疾患	65.1	肺炎	58.8
8	悪性新生物	158.7	心疾患	72.2	脳血管疾患	62.7	肺炎	49.8
9	悪性新生物	157.8	心疾患	81.3	脳血管疾患	64.7	肺炎	54.9
10	悪性新生物	164.8	心疾患	81.5	脳血管疾患	63.9	肺炎	56.8
11	悪性新生物	160.9	心疾患	83.8	脳血管疾患	62.4	肺炎	60.3
12	悪性新生物	167.3	心疾患	84.8	脳血管疾患	65.4	肺炎	54.7
13	悪性新生物	172.1	心疾患	84.2	脳血管疾患	60.4	肺炎	56.8
14	悪性新生物	181.0	心疾患	86.3	脳血管疾患	60.9	肺炎	53.0
15	悪性新生物	173.2	心疾患	90.6	脳血管疾患	63.8	肺炎	60.8
16	悪性新生物	186.1	心疾患	86.6	脳血管疾患	67.0	肺炎	57.7
17	悪性新生物	185.7	心疾患	93.0	肺炎	66.7	脳血管疾患	58.5
18	悪性新生物	185.3	心疾患	95.2	肺炎	61.3	脳血管疾患	59.1
19	悪性新生物	191.3	心疾患	96.2	脳血管疾患	64.9	肺炎	61.4
20	悪性新生物	198.5	心疾患	99.9	肺炎	65.9	脳血管疾患	61.4
21	悪性新生物	192.2	心疾患	104.5	肺炎	68.7	脳血管疾患	61.7
22	悪性新生物	198.2	心疾患	105.3	脳血管疾患	66.3	肺炎	65.3
23	悪性新生物	203.7	心疾患	109.8	肺炎	67.1	脳血管疾患	65.8
24	悪性新生物	207.9	心疾患	111.8	肺炎	65.5	脳血管疾患	59.5
25	悪性新生物	213.3	心疾患	107.9	肺炎	70.9	脳血管疾患	60.8
26	悪性新生物	210.1	心疾患	113.5	肺炎	63.7	脳血管疾患	63.3
27	悪性新生物	219.5	心疾患	108.5	肺炎	63.3	脳血管疾患	62.2
28	悪性新生物	215.4	心疾患	117.0	脳血管疾患	65.3	肺炎	61.1
29	悪性新生物	212.3	心疾患	118.0	脳血管疾患	67.0	老衰	53.3
30	悪性新生物	216.1	心疾患	118.9	脳血管疾患	70.9	老衰	65.3
令和元年	悪性新生物	228.1	心疾患	119.7	脳血管疾患	70.3	老衰	66.1

注1)「腎炎、ネフローゼ症候群及びネフローゼ」は「腎炎及びネフローゼ症候群」と略している。

死因順位(沖縄県)

第5位		第6位		第7位		第8位		年次
死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	
胃腸炎	86.3							大正11年
腎炎及びネフローゼ	91.3							昭和5年
肺炎及び気管支炎	37.3	不慮の事故	31.8	自殺	14.2	高血圧性疾患	11.6	50
肺炎及び気管支炎	29.2	不慮の事故及び有害作用	22.8	自殺	14.8	慢性肝硬変	7.7	55
老衰	29.7	不慮の事故及び有害作用	18.6	自殺	16.8	腎炎及びネフローゼ症候群	9.8	60
老衰	28.6	不慮の事故及び有害作用	21.0	自殺	19.9	腎炎及びネフローゼ症候群	9.1	61
老衰	24.0	不慮の事故及び有害作用	21.1	自殺	21.0	腎炎及びネフローゼ症候群	8.8	62
老衰	23.2	不慮の事故及び有害作用	18.9	自殺	16.6	腎炎及びネフローゼ症候群	10.3	63
老衰	20.7	不慮の事故及び有害作用	18.6	自殺	16.8	腎炎及びネフローゼ症候群	11.6	平成元年
老衰	22.4	不慮の事故及び有害作用	21.8	自殺	17.6	腎炎及びネフローゼ症候群	13.1	2
不慮の事故及び有害作用	20.1	老衰	19.0	自殺	17.7	腎炎及びネフローゼ症候群	11.4	3
不慮の事故及び有害作用	22.8	老衰	20.7	自殺	18.9	腎炎及びネフローゼ症候群	11.0	4
不慮の事故及び有害作用	23.3	老衰	19.1	自殺	17.7	腎炎及びネフローゼ症候群	13.3	5
不慮の事故及び有害作用	20.3	自殺	19.9	老衰	18.0	腎炎及びネフローゼ症候群	11.9	6
不慮の事故	25.9	慢性閉塞性肺疾患	20.9	自殺	19.5	老衰	13.6	7
不慮の事故	21.8	自殺	17.5	慢性閉塞性肺疾患	15.2	老衰	13.5	8
不慮の事故	24.6	自殺	18.8	慢性閉塞性肺疾患	17.2	老衰	13.5	9
自殺	24.3	不慮の事故	23.6	慢性閉塞性肺疾患	15.9	老衰	14.4	10
自殺	25.4	不慮の事故	25.2	慢性閉塞性肺疾患	18.1	老衰	14.6	11
自殺	26.5	不慮の事故	22.1	慢性閉塞性肺疾患	18.0	肝疾患	14.3	12
自殺	23.6	不慮の事故	22.8	慢性閉塞性肺疾患	19.6	肝疾患	13.3	13
自殺	24.6	不慮の事故	18.8	慢性閉塞性肺疾患	17.0	肝疾患	13.6	14
自殺	26.1	不慮の事故	23.9	慢性閉塞性肺疾患	16.2	肝疾患	13.9	15
自殺	23.5	不慮の事故	22.3	慢性閉塞性肺疾患	16.0	肝疾患	15.8	16
自殺	24.2	不慮の事故	20.9	慢性閉塞性肺疾患	17.9	肝疾患	17.7	17
自殺	27.5	不慮の事故	23.1	肝疾患	16.3	老衰	14.1	18
自殺	23.4	不慮の事故	23.3	肝疾患	18.1	老衰	17.3	19
自殺	24.0	不慮の事故	19.6	肝疾患	17.5	慢性閉塞性肺疾患	16.6	20
自殺	27.9	不慮の事故	23.7	肝疾患	18.8	慢性閉塞性肺疾患・老衰	16.1	21
自殺	25.5	不慮の事故	21.3	老衰	19.2	慢性閉塞性肺疾患	18.0	22
自殺	27.2	老衰	24.9	不慮の事故	20.8	肝疾患	17.1	23
老衰	27.7	自殺	20.3	不慮の事故	19.2	肝疾患	18.7	24
老衰	34.3	不慮の事故	20.8	自殺	20.8	肝疾患	20.4	25
老衰	40.5	不慮の事故	23.5	自殺	20.3	肝疾患	19.1	26
老衰	44.4	自殺	20.7	不慮の事故	20.2	肝疾患	17.0	27
老衰	52.3	不慮の事故	20.0	自殺	18.9	肝疾患	18.4	28
肺炎	48.2	誤嚥性肺炎	25.2	不慮の事故	23.2	肝疾患	20.7	29
肺炎	47.1	誤嚥性肺炎	25.5	肝疾患	21.8	不慮の事故	19.0	30
肺炎	44.7	誤嚥性肺炎	25.2	肝疾患	23.0	不慮の事故	19.7	令和元年

注2) 死因の分類について、平成29年からは「ICD-10(2013年版)」が適用されている。

表14 年次別にみた

年次	第1位		第2位		第3位		第4位	
	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率
大正14年	肺炎及び気管支炎	275.6	胃腸炎	238.2	全結核	194.1	脳血管疾患	161.2
昭和5年	胃腸炎	221.4	肺炎及び気管支炎	200.1	全結核	185.6	脳血管疾患	162.8
50	脳血管疾患	156.7	悪性新生物	122.6	心疾患	89.2	肺炎及び気管支炎	33.7
55	脳血管疾患	139.5	悪性新生物	139.1	心疾患	106.2	肺炎及び気管支炎	33.7
60	悪性新生物	156.1	心疾患	117.3	脳血管疾患	112.2	肺炎及び気管支炎	42.7
61	悪性新生物	158.5	心疾患	117.9	脳血管疾患	106.9	肺炎及び気管支炎	43.9
62	悪性新生物	164.2	心疾患	118.4	脳血管疾患	101.7	肺炎及び気管支炎	44.9
63	悪性新生物	168.4	心疾患	129.4	脳血管疾患	105.5	肺炎及び気管支炎	51.6
平成元年	悪性新生物	173.6	心疾患	128.1	脳血管疾患	98.5	肺炎及び気管支炎	52.7
2	悪性新生物	177.2	心疾患	134.8	脳血管疾患	99.4	肺炎及び気管支炎	60.7
3	悪性新生物	181.7	心疾患	137.2	脳血管疾患	96.2	肺炎及び気管支炎	62.0
4	悪性新生物	187.8	心疾患	142.2	脳血管疾患	95.6	肺炎及び気管支炎	65.0
5	悪性新生物	190.4	心疾患	145.6	脳血管疾患	96.0	肺炎及び気管支炎	70.6
6	悪性新生物	196.4	心疾患	128.6	脳血管疾患	96.9	肺炎及び気管支炎	72.4
7	悪性新生物	211.6	脳血管疾患	117.9	心疾患	112.0	肺炎	64.1
8	悪性新生物	217.5	脳血管疾患	112.6	心疾患	110.8	肺炎	56.9
9	悪性新生物	220.4	心疾患	112.2	脳血管疾患	111.0	肺炎	63.1
10	悪性新生物	226.7	心疾患	114.3	脳血管疾患	110.0	肺炎	63.8
11	悪性新生物	231.6	心疾患	120.4	脳血管疾患	110.8	肺炎	74.9
12	悪性新生物	235.2	心疾患	116.8	脳血管疾患	105.5	肺炎	69.2
13	悪性新生物	238.8	心疾患	117.8	脳血管疾患	104.7	肺炎	67.8
14	悪性新生物	241.7	心疾患	121.0	脳血管疾患	103.4	肺炎	69.4
15	悪性新生物	245.4	心疾患	126.5	脳血管疾患	104.7	肺炎	75.3
16	悪性新生物	253.9	心疾患	126.5	脳血管疾患	102.3	肺炎	75.7
17	悪性新生物	258.3	心疾患	137.2	脳血管疾患	105.3	肺炎	85.0
18	悪性新生物	261.0	心疾患	137.2	脳血管疾患	101.7	肺炎	85.0
19	悪性新生物	266.9	心疾患	139.2	脳血管疾患	100.8	肺炎	87.4
20	悪性新生物	272.3	心疾患	144.4	脳血管疾患	100.9	肺炎	91.6
21	悪性新生物	273.5	心疾患	143.7	脳血管疾患	97.2	肺炎	89.0
22	悪性新生物	279.7	心疾患	149.8	脳血管疾患	97.7	肺炎	94.1
23	悪性新生物	283.2	心疾患	154.5	肺炎	98.9	脳血管疾患	98.2
24	悪性新生物	286.6	心疾患	157.9	肺炎	98.4	脳血管疾患	96.5
25	悪性新生物	290.3	心疾患	156.5	肺炎	97.8	脳血管疾患	94.1
26	悪性新生物	293.5	心疾患	157.0	肺炎	95.4	脳血管疾患	91.1
27	悪性新生物	295.5	心疾患	156.5	肺炎	96.5	脳血管疾患	89.4
28	悪性新生物	298.3	心疾患	158.4	肺炎	95.4	脳血管疾患	87.4
29	悪性新生物	299.5	心疾患	164.3	脳血管疾患	88.2	老衰	81.3
30	悪性新生物	300.7	心疾患	167.6	老衰	88.2	脳血管疾患	87.1
令和元年	悪性新生物	304.2	心疾患	167.9	老衰	98.5	脳血管疾患	86.1

注1)「腎炎、ネフローゼ症候群及びネフローゼ」は「腎炎及びネフローゼ症候群」と略している。

死因順位(全国)

第5位		第6位		第7位		第8位		年次
死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	死因	死亡率	
老衰	117.3							大正14年
老衰	118.8							昭和5年
不慮の事故	30.3	老衰	26.9	自殺	18.0	高血圧性疾患	17.8	50
老衰	27.6	不慮の事故及び有害作用	25.1	自殺	17.7	慢性肝疾患及び肝硬変	14.2	55
不慮の事故及び有害作用	24.6	老衰	23.1	自殺	19.4	慢性肝疾患及び肝硬変	14.3	60
不慮の事故及び有害作用	23.7	老衰	22.2	自殺	21.2	慢性肝疾患及び肝硬変	14.0	61
不慮の事故及び有害作用	23.2	老衰	20.8	自殺	19.6	慢性肝疾患及び肝硬変	13.7	62
不慮の事故及び有害作用	24.8	老衰	21.6	自殺	18.7	慢性肝疾患及び肝硬変	13.9	63
不慮の事故及び有害作用	25.4	老衰	19.4	自殺	17.3	慢性肝疾患及び肝硬変	13.6	平成元年
不慮の事故及び有害作用	26.2	老衰	19.7	自殺	16.4	腎炎及びネフローゼ症候群	14.0	2
不慮の事故及び有害作用	26.9	老衰	18.8	自殺	16.1	腎炎及びネフローゼ症候群	13.8	3
不慮の事故及び有害作用	28.1	老衰	18.9	自殺	16.9	腎炎及びネフローゼ症候群	14.8	4
不慮の事故及び有害作用	28.0	老衰	18.7	自殺	16.6	腎炎及びネフローゼ症候群	14.9	5
不慮の事故及び有害作用	29.1	老衰	18.9	自殺	16.9	腎炎及びネフローゼ症候群	15.1	6
不慮の事故	36.5	老衰	17.3	自殺	17.2	肝疾患	13.7	7
不慮の事故	31.4	自殺	17.8	老衰	16.7	肝疾患	13.2	8
不慮の事故	31.1	自殺	18.8	老衰	17.2	腎不全	13.3	9
不慮の事故	31.1	自殺	25.4	老衰	17.1	腎不全	13.3	10
不慮の事故	32.0	自殺	25.0	老衰	18.2	腎不全	14.1	11
不慮の事故	31.4	自殺	24.1	老衰	16.9	腎不全	13.7	12
不慮の事故	31.4	自殺	23.3	老衰	17.6	腎不全	14.0	13
不慮の事故	30.7	自殺	23.8	老衰	18.0	腎不全	14.4	14
不慮の事故	30.7	自殺	25.5	老衰	18.6	腎不全	14.9	15
不慮の事故	30.3	自殺	24.0	老衰	19.1	腎不全	15.2	16
不慮の事故	31.6	自殺	24.2	老衰	20.9	腎不全	16.3	17
不慮の事故	30.3	自殺	23.7	老衰	22.0	腎不全	16.8	18
不慮の事故	30.1	自殺	24.4	老衰	24.4	腎不全	17.2	19
不慮の事故	30.3	老衰	28.6	自殺	24.0	腎不全	17.9	20
老衰	30.7	不慮の事故	30.0	自殺	24.4	腎不全	18.1	21
老衰	35.9	不慮の事故	32.2	自殺	23.4	腎不全	18.8	22
不慮の事故	47.1	老衰	41.1	自殺	22.9	腎不全	19.4	23
老衰	48.2	不慮の事故	32.6	自殺	21.0	腎不全	19.9	24
老衰	55.5	不慮の事故	31.5	自殺	20.7	腎不全	20.0	25
老衰	60.1	不慮の事故	31.1	腎不全	19.8	自殺	19.5	26
老衰	67.7	不慮の事故	30.6	腎不全	19.6	自殺	18.5	27
老衰	74.2	不慮の事故	30.6	腎不全	19.7	自殺	16.8	28
肺炎	77.7	不慮の事故	32.4	誤嚥性肺炎	28.7	腎不全	20.2	29
肺炎	76.2	不慮の事故	33.2	誤嚥性肺炎	31.0	腎不全	21.0	30
肺炎	77.2	誤嚥性肺炎	32.6	不慮の事故	31.7	腎不全	21.5	令和元年

注2) 死因の分類について、平成29年からは「ICD-10(2013年版)」が適用されている。

(4) 主要死因

図3は、本県における主な死因の死亡率(人口10万対)の年次推移を表したものである。

① 悪性新生物

悪性新生物による死亡数は、令和元年は3,271人で、死亡率は228.1となっている。また、死因順位は第1位である。

② 心疾患

心疾患による死亡数は、令和元年は1,716人で、死亡率は119.7となっている。また、死因順位は第2位である。

③ 肺炎

肺炎による死亡数は、令和元年は641人で、死亡率は44.7となっている。また、死因順位は第5位である。なお、図3における肺炎の主な低下要因は、「ICD-10(2013年版)」(平成29年適用)による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

④ 脳血管疾患

脳血管疾患による死亡数は、令和元年は1,008人で、死亡率は70.3となっている。また、死因順位は第3位である。

⑤ 老衰

老衰による死亡数は、令和元年は948人で、死亡率は66.1となっている。また、死因順位は第4位である。

